

平成 30 年度千葉科学大学動物危機管理教育研究センター 公開講座

“私たちの身近な『動物危機管理』について考える”

8/22 Wed 13:30~15:30 @千葉県立中央博物館

第 1 回

千葉の動物とどう関わる？



1. あいさつ (千葉科学大学動物危機管理教育研究センター長 堀本政夫)

2. 内容

(1) 千葉にいるケモノ、いないケモノ～動物の「分布」を考える～

(千葉県立中央博物館 下稲葉さやか)

(2) 野生動物との良い関係を築くには

(千葉科学大学動物危機管理教育研究センター 加瀬ちひろ)

(3) 質疑応答

千葉にいるケモノ、いないケモノ～動物の「分布」を考える～

千葉県立中央博物館 下稲葉さやか

生物には、生息している場所、すなわち分布域があります。今回は、特に哺乳類の分布の特徴を解説し、千葉県の哺乳類がいる・いない理由を考えてみます。

世界の動物（生物）の分布の傾向を大まかに表すものとして「生物地理区」、（オーストラリア区、新熱帯区、エチオピア区、東洋区、新北区、旧北区）などが提唱されています（他の区分もあります）。日本はトカラ列島小宝島以南の琉球列島が東洋区、それより北は旧北区になります。

日本の哺乳類相は、大陸と共通の種が分布する「北海道」、約半分が日本固有種の「本州・四国・九州」、朝鮮半島と共通の種もいる「対馬」、世界的に独特の種がみられる「琉球列島」、と4つの傾向があります。その背景には、氷河期の海面の低下により大陸とつながるなど、過去の気候変動が関係します。

現在の千葉県にいるのは、古くから生息し、他の本州の地域と共通の「在来種」、人間が持ち込んだ「外来種」です。過去いたのに現在いないのは「絶滅種」で、オオカミは江戸期、ムササビは縄文期にはいましたが、現在はいません。

野生動物との良い関係を築くには

千葉科学大学動物危機管理教育研究センター 加瀬ちひろ

ヒトと野生動物の間に生じる問題には、野生動物の生息地破壊や乱獲などヒトが野生動物に与える危機や、農作物被害や人身被害、家屋侵入被害など野生動物がヒトに与える危機があります。「野生動物による被害」は全国的に深刻な問題となっており、農村地域だけでなく都市部でも発生しています。このような問題を解決するには、今起きている問題への対処（危機管理）に加えて、被害発生メカニズムの特定や被害の発生しやすさの推定（リスク評価）、そして被害の発生原因への対処（リスク管理）が必要です。

ところで、みなさんは日本に生息している身近な野生動物について、どれくらい知っているでしょうか。図鑑には書いていないけれども、野生動物と上手に付き合うためには知っておく必要のある、彼らの能力の一部について紹介します。また、大きな問題となっている農作物被害や人身被害の引き金は、じつは何気ない人間の振る舞いであることが分かっています。本当の意味で野生動物との良い関係を築くために、私たち一人一人ができることは何か考えます。

（表の足跡：左からイノシシ、アナグマ、アライグマ、ハクビシン、タヌキ）